

漢江（杜牧）

溶溶様様白鷗飛 緑浄春深好染衣

南去北来人自老 夕陽長送釣船歸

溶々 漾々として 白鷗 飛ぶ

解説 漢水のほとりにたち、夕暮れの景色を眺めながら、胸にわき起こる感懐を詠った歌。

緑 浄く 春 深うして 好し 衣を 染むるに

語釈 ※漢江＝漢水、また様水の名がある。全長約

一五〇〇キロといわれる。※溶溶＝水が盛んに流れるさま。※様様＝水がゆったり流れるさま。※夕陽＝夕日。

※長＝いつまでも。

南去 北来 人 自ら 老ゆ

通釈 漢江の水はゆったりとしているが、盛んに流れている。その水面を白鷗が飛んでいる。春が深まり、

川辺の緑も鮮やかで、私の衣を染めてしまふそうだ。人は南へ北へ行き来しているうちに、いつのまにか

老いいてしまう。夕陽はいつまでもいつまでも、家

夕陽 長なえに 送る 釣船の 帰るを

路へと急ぐ釣り船を照らしている。